

SDGs経営実践のための

SDGs社会的インパクト・マネジメント ガイド

導入編



私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県

1 SDGsインパクト・マネジメントガイドは、【導入編】 【実践編】 【事例編】 の3種類をパッケージとして公開しています。

2 本ガイドは【導入編】です。社会的インパクト・マネジメントの実践方法を知りたい方は【実践編】を、具体的事例を知りたい方は【事例編】をご覧ください。



導入編

なぜ、企業がSDGs経営に取り組むことが良いのか、その手法としての社会的インパクト・マネジメントを紹介



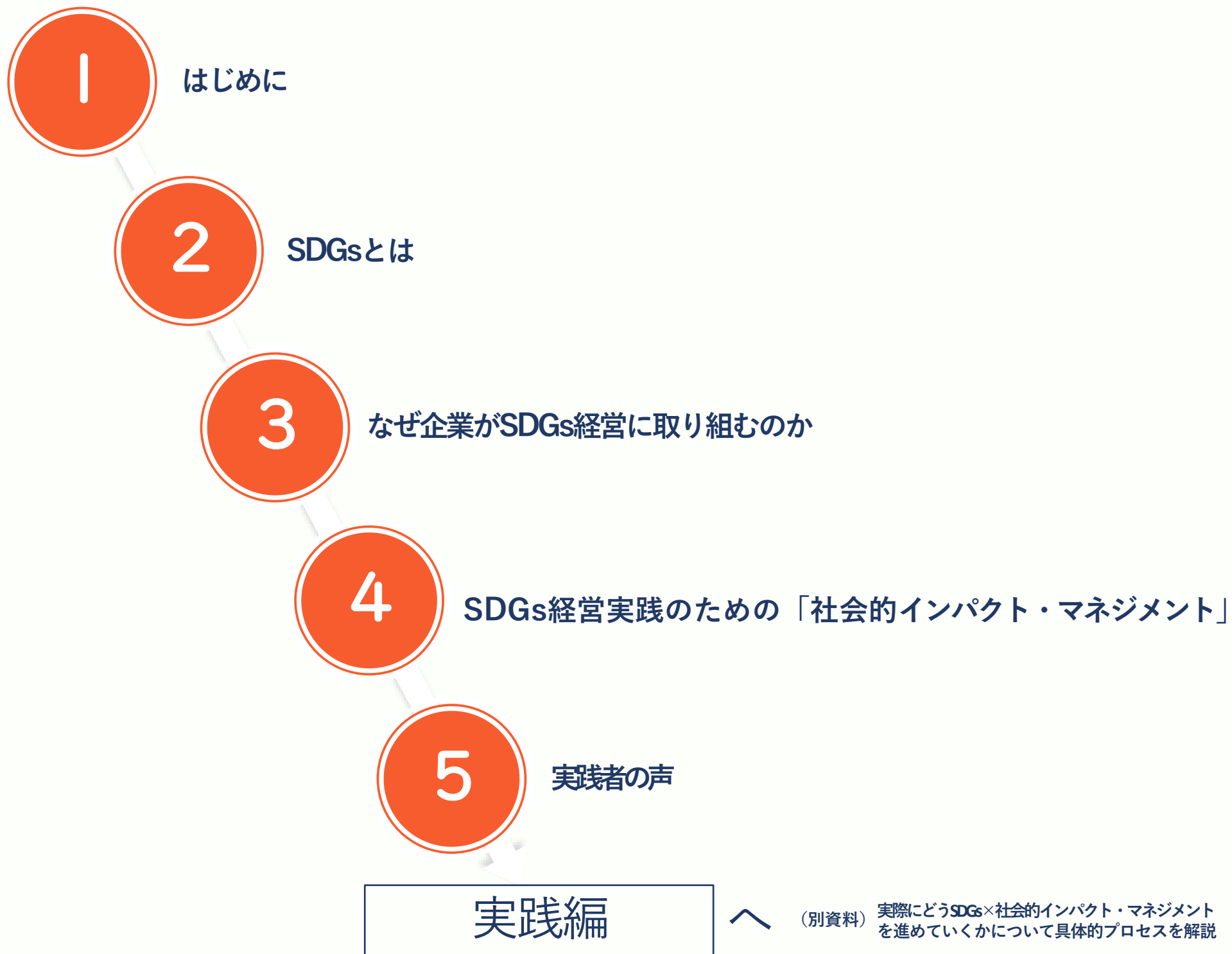
実践編

SDGs×社会的インパクト・マネジメントを進めていく方法について、具体的なプロセスを解説



事例編

SDGs×社会的インパクト・マネジメントに取り組んだ3社の実証事業についてレポートを紹介



はじめに

SDGs（持続可能な開発目標）への取組みについては、まだ多くの企業が、既存事業とゴールとの「関連づけ」のレベルにあるのが現状といえます。しかし、SDGsは、その先の「変革」がなければ達成することはできません。

本資料は、SDGs経営[※]を志向する企業と、それを支援する資金提供者の方々に向けて、「なぜ、それが必要なのか?」、「それがどう企業経営にとって良いのか」をお伝えするとともに、それを実践する手法としての「社会的インパクト・マネジメント」を紹介するために作成しました。

「社会的インパクト・マネジメント」とは、事業の社会的・環境的な価値（社会的インパクト）を見える化し、その情報を事業改善や意思決定を行う経営のあり方です。

多くの企業・組織と資金提供者が「社会的インパクト・マネジメント」を活用し、SDGs経営[※]を実践し、改善・改革を進めることでビジネスの長期的な価値向上と、持続可能な社会がともに実現していくことをめざしています。

※本資料では「本業を通してSDGs達成への貢献を目指す経営」と定義しています。

社会的インパクト・マネジメント

社会的インパクト評価

事業の社会的な効果や
価値の見える化



評価の活用

情報にもとづいた
事業改善や意思決定

2

SDGs（持続可能な開発目標）とは

SDGs（Sustainable Development Goals：エスディー・ジーズ「持続可能な開発目標」とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

経済・社会・環境の調和を図りながら発展し続けるために解決されるべき地球規模の課題で、政府・企業・市民など **多様な主体による行動** が求められています。



2

SDGsとは ～企業活動とSDGs～

- あらゆる企業活動はSDGsに関連しています。SDGsを通して事業を見直すことで、新たな価値や貢献可能性の発見ができ、さらなる価値向上につなげていくことが期待できます。

川田製作所の場合 (神奈川県・小田原市)

創業：1969年（昭和44年）
業種：電機・電子部品の精密加工
従業員数：20名（パート含む）
7割以上が高齢者、障がい者、外国人

10 人や国の不平等をなくそう



に貢献

役所からの紹介で障がい者を雇用したことがきっかけ。彼らが真剣に仕事に取り組む姿をみて、それ以来定常的に障がい者雇用に取り組んでいる。
高齢者や外国人雇用も行なっている。



8 働きがいも経済成長も



に貢献

多様な人材が活躍する“良い雇用の場”を作ることを目指して、一人ひとりのニーズに合わせた働き方の実現を目指している。それにより人手不足が解消し、雇用の確保と生産の安定化をさせている。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



に貢献

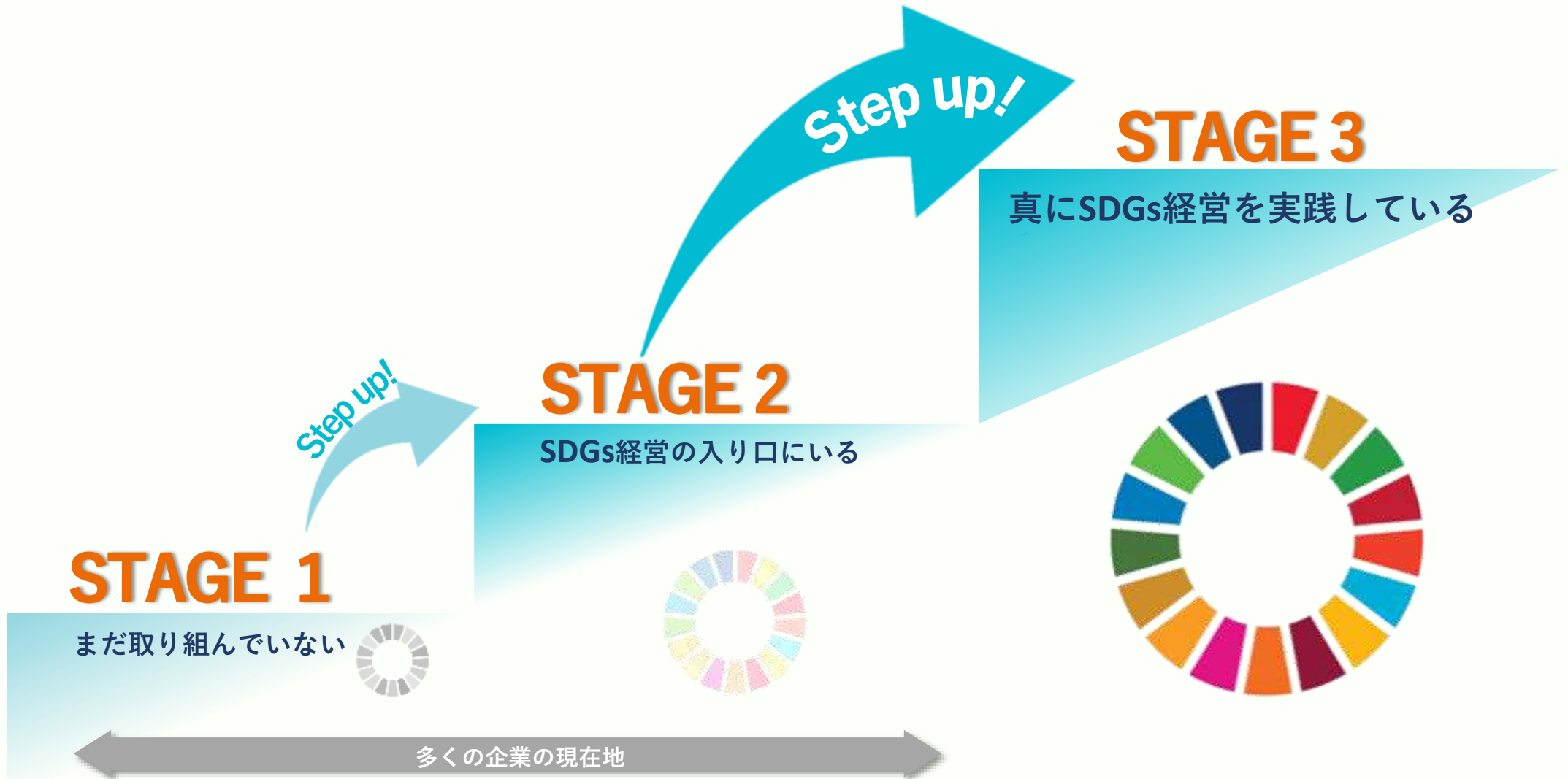
クラウド型生産管理システムやナレッジ共有などIT活用を行うことで、多様な人材を活かし、技術開発や生産性の向上も実現させている。



2

SDGsとは ~SDGs経営のステージ~

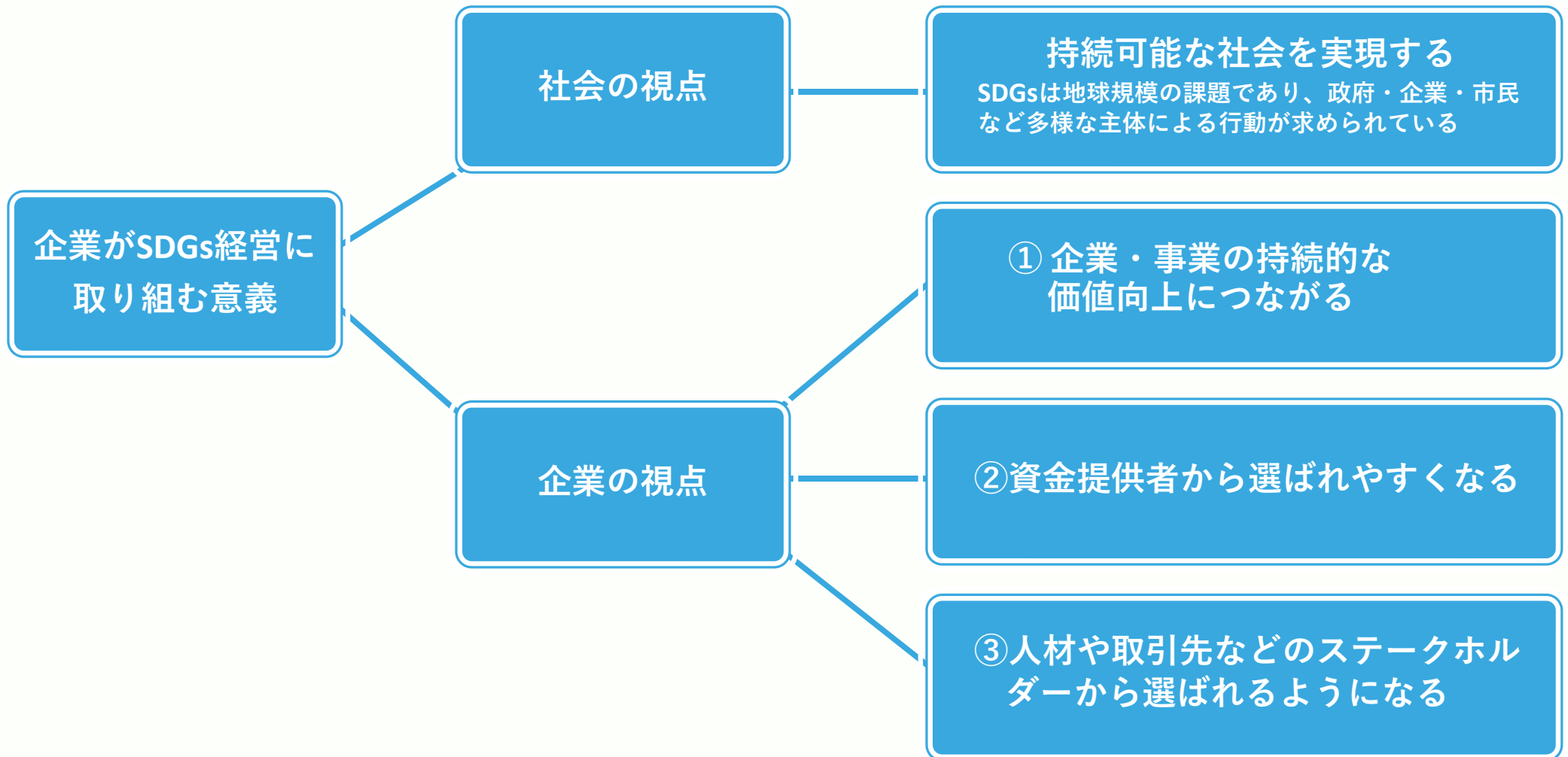
●SDGsに取り組む企業は増えている一方、真にSDGs経営を実践できている企業はまだ多くないのが現状です。



3

なぜ企業がSDGs経営に取り組むのか

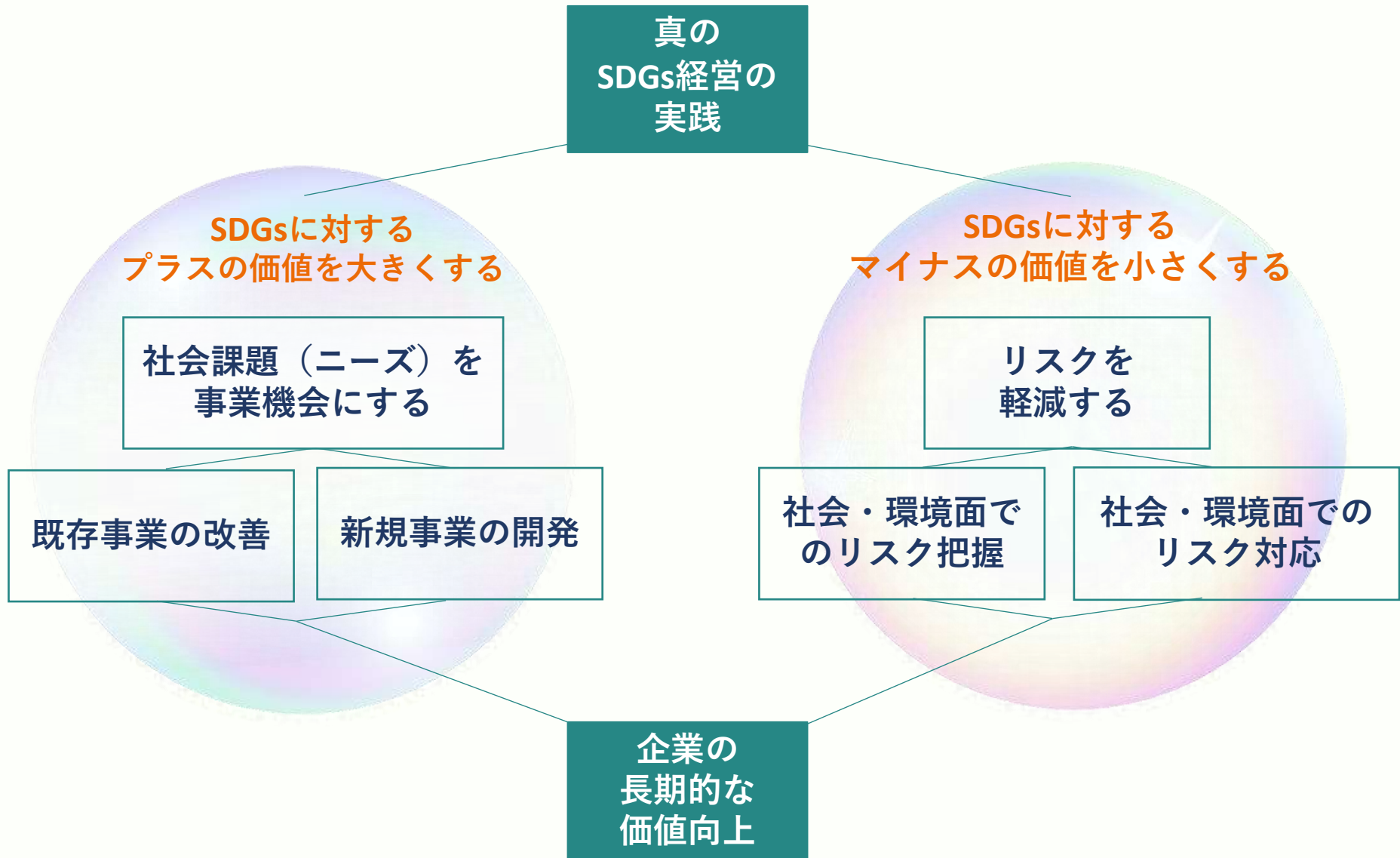
●真のSDGs経営に取り組む意義は、社会と企業のそれぞれの視点があり、企業経営にとって様々なメリットがあります。



3

なぜ企業がSDGs経営に取り組むのか ~持続的な価値向上につながる~

●SDGs経営のステージを上げることで、企業・事業の持続的な価値向上につながります。

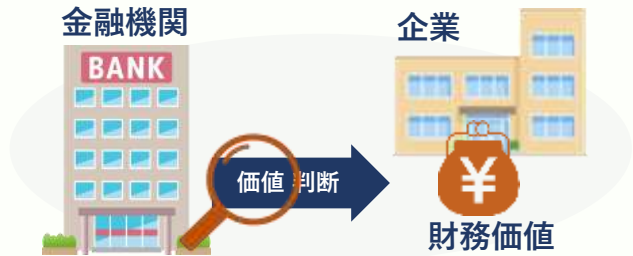


3

なぜ企業がSDGs経営に取り組むのか ~資金提供者から選ばれる~

- 財務状況だけでなく、環境・社会・ガバナンス（ESG）などの課題を勘案し、企業の持続性を考慮して投資する「サステナブル投資」が増加しています。
- SDGs経営により、資金提供者から選ばれやすくなることが期待できます。

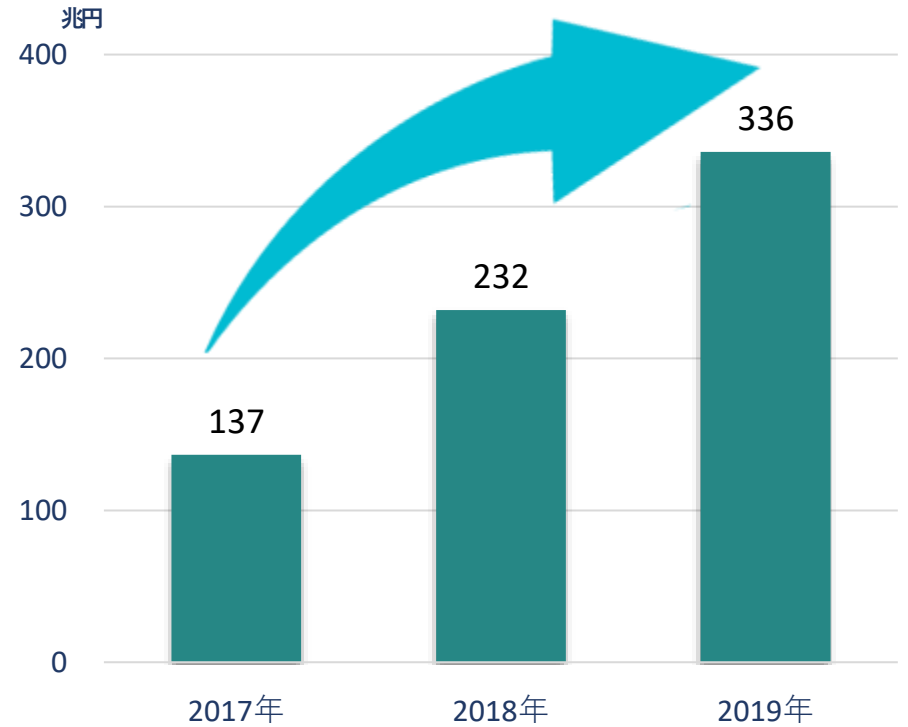
今まで



これから



増加するサステナブル投資残高（国内）



総運用資産に占める割合

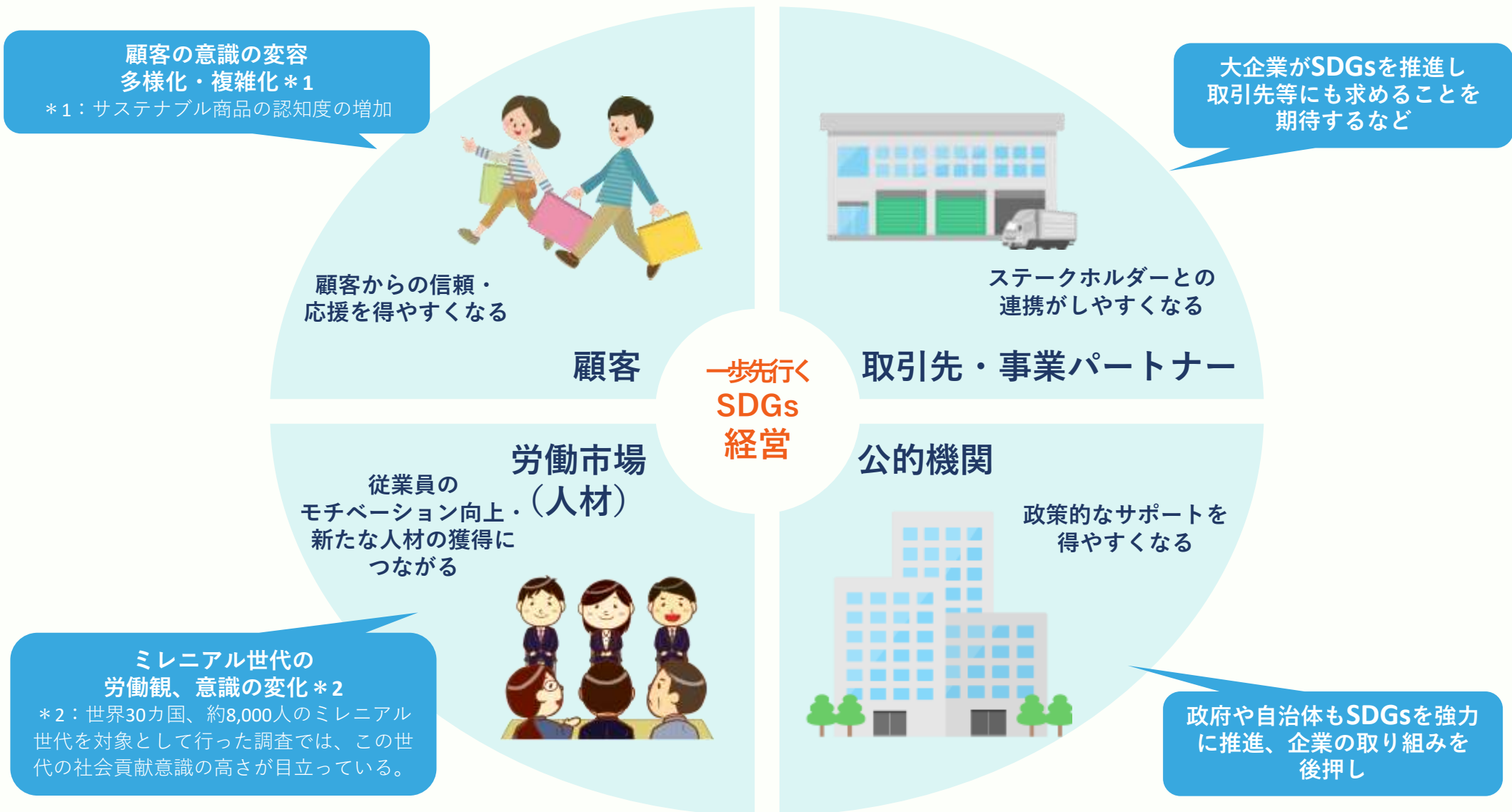
年	割合
2017年	35.0%
2018年	41.7%
2019年	55.9%

出所：サステナブル投資残高調査2018

3

なぜ企業がSDGs経営に取り組むのか ~ステークホルダーから選ばれる~

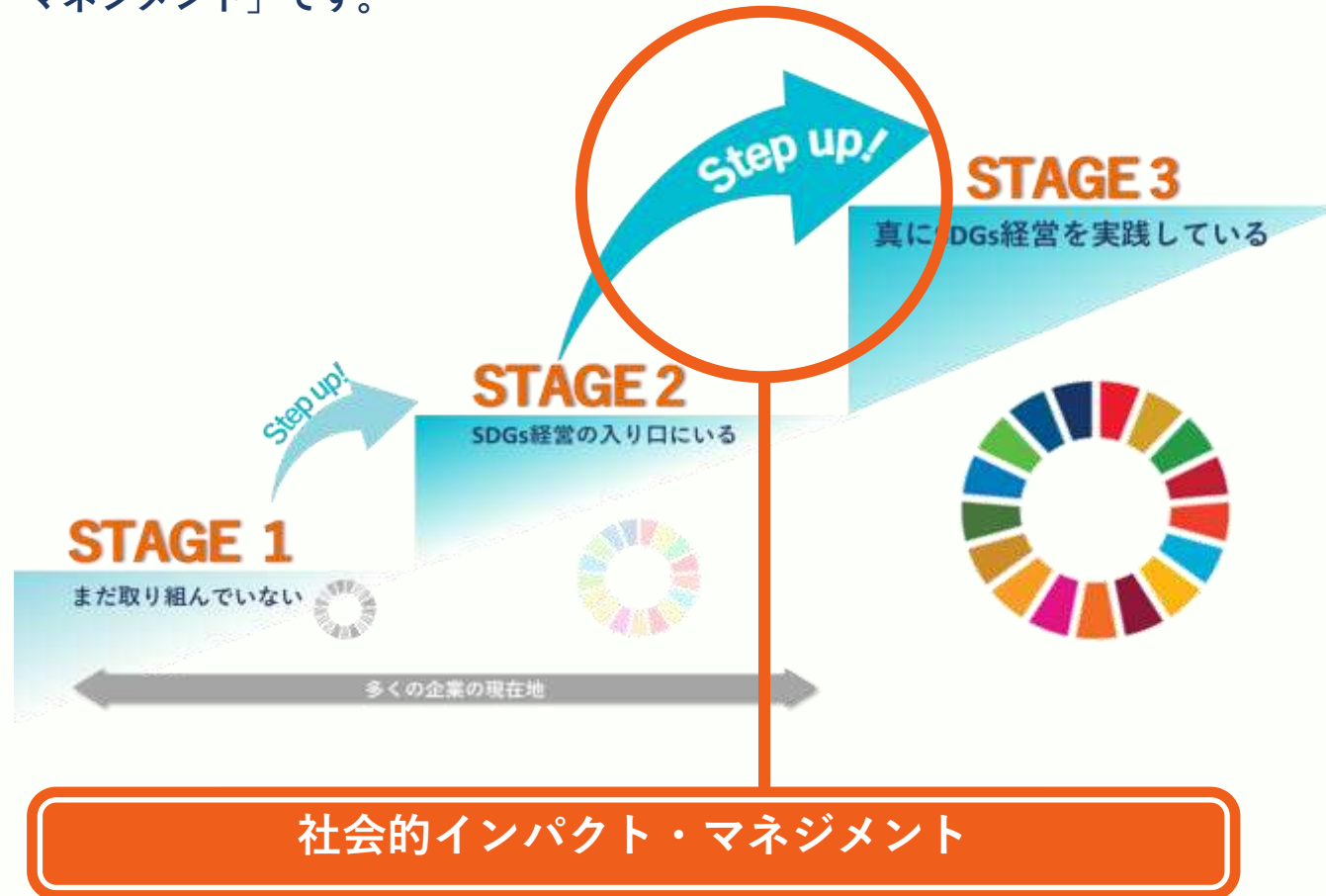
●SDGs経営のレベルアップによって、人材や取引先などのステークホルダーから選ばれるやすくなることが期待できます。



4

SDGs経営実践のための「社会的インパクト・マネジメント」とは

- SDGs経営のステージにおいて、「SDGsと自社事業の関連づけ」から「SDGsを経営に統合」に上げる手法の一つが「社会的インパクト・マネジメント」です。



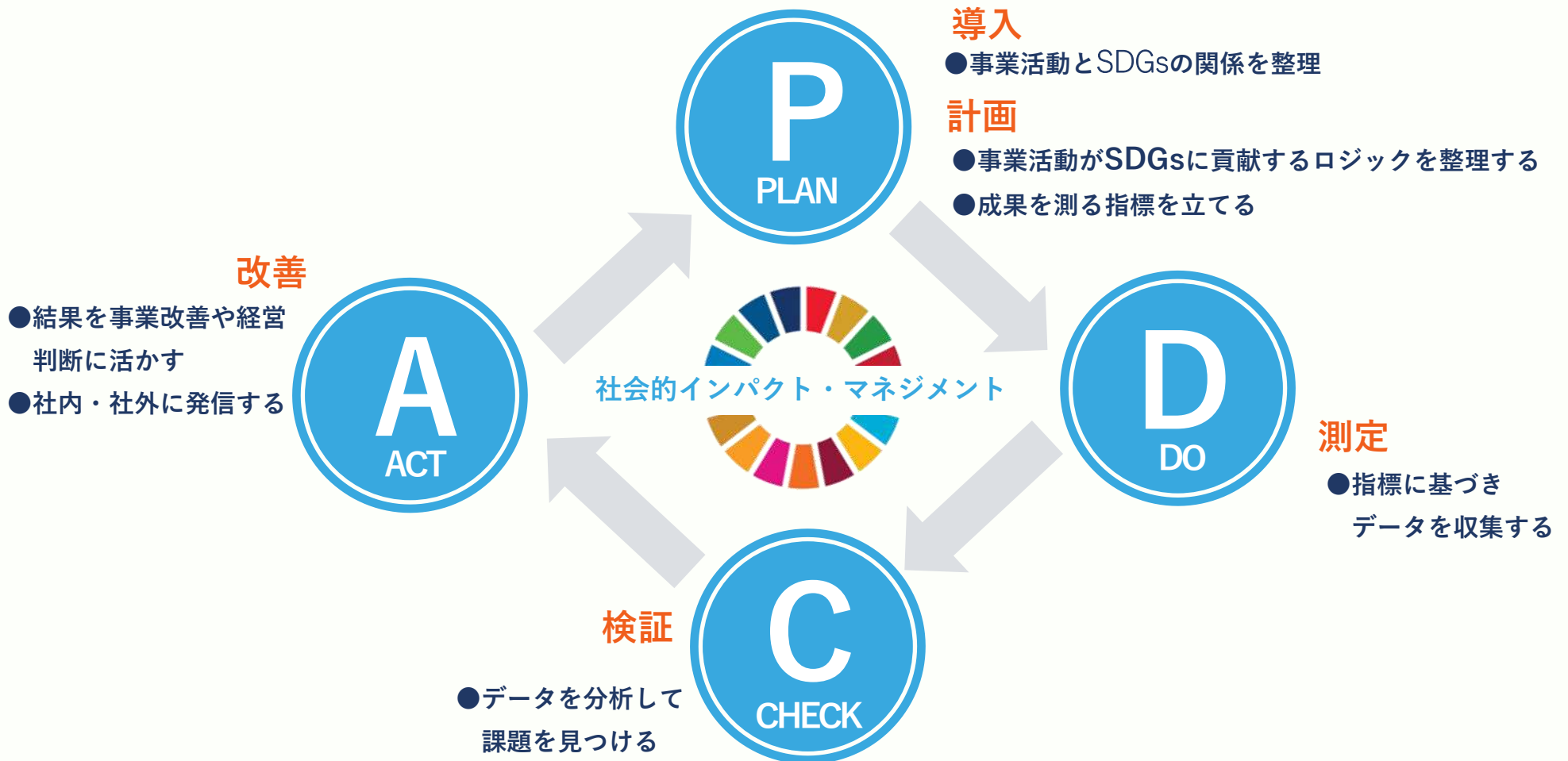
事業運営により得られた事業の社会的な効果や価値に関する情報にもとづいた事業改善や意思決定を行い、社会的インパクト*の向上を志向するマネジメントのこと

*社会的インパクトとは：短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的なアウトカム（成果・変化・便益）のこと ※内閣府による定義（平成28年3月）

4

SDGs経営実践のための「社会的インパクト・マネジメント」の基本プロセス

- 社会的インパクト・マネジメントによって、企業・資金提供者が対話をしながら、SDGsへの取組みレベルを上げていくことが、双方の持続的な価値創造につながることを期待できます。
- 社会的インパクト・マネジメントは、社会的・環境的な価値（社会的インパクト）を見える化し、その情報を基にPDCAサイクルを回すことによって行います。



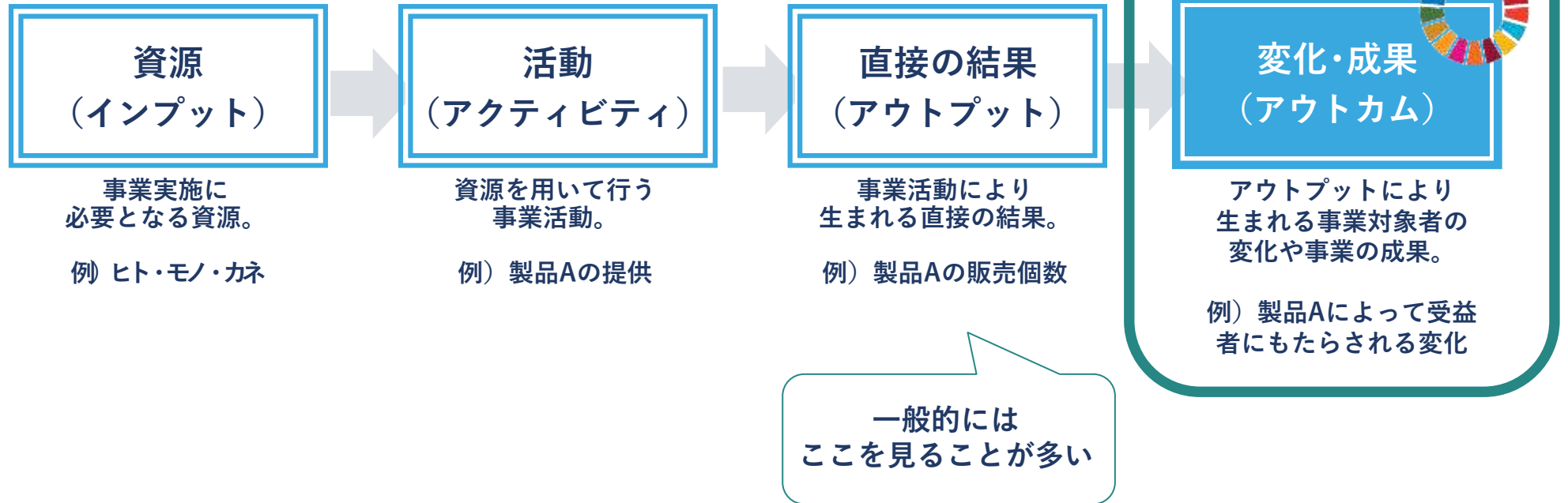
4

SDGs経営実践のための「社会的インパクト・マネジメント」

- SDGsへの貢献は、活動（アクティビティ）や直接の結果（アウトプット）の先にある、社会の変化や成果（アウトカム）を見える化することが重要です。
- 前ページで示したP（PLAN：計画）においてロジックモデルを作成し、SDGsと事業活動とのつながりを整理します。



ロジックモデル（イメージ）



具体的な実践方法については「SDGs社会的インパクト・マネジメント ガイド（実践編）」をご参照ください。

5

実践者の声

- SDGs経営の実践として、社会的インパクト・マネジメントに取り組んだ企業の声を紹介します。
(2019年度 SDGs社会的インパクト・マネジメント実践研修の参加者の声)

アウトカムという概念を知らなかったこともあり、ロジックモデルを作成するうえで、改めて自社の最終アウトカム(この事業は何を目指しているのか)を自社内で問う機会となりました。
(ウェディング・飲食業)

設計したロジックモデルを共通言語となり、多様な関係者との関りが広がり、その中で気づくことが多くありました。
(エネルギー業)

ロジックモデル作成のプロセスで、メンバーと意識を合わせ、「皆」で決め「皆」で目指すかたちができます。目指すべきものははっきりと共有できれば、ブレずにその軸を持って目標達成へと向かえると
思います。
(再生資源卸売業)

自社で社会的インパクト・マネジメントを組み込むとしたら事業性評価の中であると考えています。金融機関側に非財務情報をみる目がないのが現状なので、今できることは、金融機関側の人間の見方を変えていくこと、非財務情報の扱いを
教えていくことだと考えています。
(金融業)

本資料は、2019年度神奈川県SDGs社会的インパクト評価実証事業において、ケイスリー株式会社が作成したものです。

本資料に関する問い合わせ先

ケイスリー株式会社 contact@k-three.org